



バンコク便り



1. はじめに

昨年末発生したタイでの新型コロナウイルス感染拡大第2波により、年明けより各種行動が制限されていますが、最近の新規感染者数は1日あたり2桁台まで減少しています。2月23日には追加の制限緩和が発表され、バンコクはレッドゾーン（高度管理地域）からオレンジ（管理地域）へ変更となり、午後11時まで飲食店でのアルコール提供が再開されたほか、バーなどの娯楽施設も営業可能となりました。3月初めにはワクチン接種スタートの予定ですが、在タイ外国人はいつから接種できるのか気になるところです。

2. 当地ビジネス情報

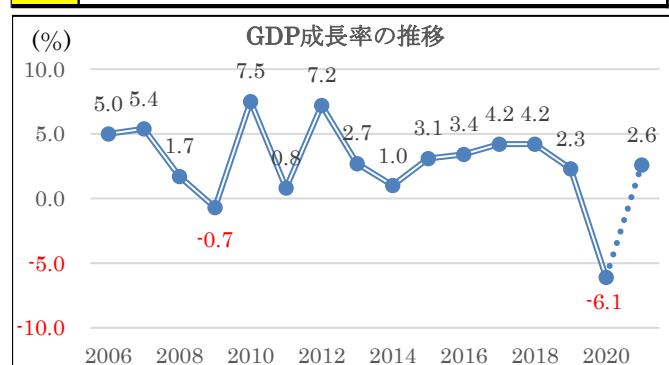
（新たな国家戦略 BCG 経済）

タイ政府は新たな施策として「BCG（バイオ・循環型・グリーン）経済」を2021年～26年の国家戦略とする方針を発表し、2036年までに高所得国入りを目指すタイランド4.0と同様に重要戦略に位置付けられています。生物・文化的多様性に重点を置き、(1)食品・農業、(2)医療と健康、(3)バイオエネルギー/マテリアル/ケミカル、(4)観光・クリエイティブ経済の4分野に焦点が当てられ、政府方針の下記の戦略概要に沿って進められる予定です。具体的な計画や政策内容は今後発表される見込みで、タイ投資委員会（BOI）では以前より当該分野への投資を促進しており、バイオエネルギー関連の研究開発（R&D）、廃棄物・リサイクル、エコ化学品・ポリマーなどの分野の事業に対して手厚い税制上の恩典を付与しています。

2月15日には2020年通年の国内総生産（GDP、速報値）が発表され、実質成長率は△6.1%（前年は同2.3%増）となり、通年では2009年以来のマイナス成長となりました。業種別では工業及び製造業で△5%超、宿泊・飲食は△36.6%、輸送・倉庫は△21.0%と大幅に落ち込んでいます。2021年の予想では、ワクチン接種や世界的な経済回復、新たな国家戦略によるタイ経済の発展などの歯車がかみ合ったプラス成長への転換が見込まれています。

2月15日には2020年通年の国内総生産（GDP、速報値）が発表され、実質成長率は△6.1%（前年は同2.3%増）となり、通年では2009年以来のマイナス成長となりました。業種別では工業及び製造業で△5%超、宿泊・飲食は△36.6%、輸送・倉庫は△21.0%と大幅に落ち込んでいます。2021年の予想では、ワクチン接種や世界的な経済回復、新たな国家戦略によるタイ経済の発展などの歯車がかみ合ったプラス成長への転換が見込まれています。

戦略①	環境保全と資源の使用のバランスを取り、資源・生物多様性の持続可能性を構築
戦略②	技術革新やテクノロジーなどを用いた地域経済の発展
戦略③	BCG経済モデルに沿った産業計画による持続可能性のさらなる向上
戦略④	国際社会の変化に対応する能力の向上



出所：NESDC (21年予想はカシコンリサーチセンター)

3. 現地トピックス

（2021年タイ春節）

今年もタイの街中では春節（旧正月）の華やかな飾りつけがされていましたが、毎年多くいた中国人観光客がほとんどいないことや、新型コロナ感染拡大防止からチャイナタウンで予定されていたイベントも中止となるなど、例年のような盛り上がりには欠けたようです。イベントはありませんでしたが、国内観光促進のため春節に合わせ2月12日～15日まで3連休とする特別公休日を設定したこともあり、渋滞は発生していました。

商業施設では春節とバレンタイン商戦が実施され、店頭での割引セールが目立っていましたが、外出を控える動きや若年層でオンライン購入が増えていることなどから、SNSでの販売やプロモーションも強化されていました。



タイ中華街 ヤワラーの様子

【本件に関する連絡先】 営業推進部 地方創生室 石井・高橋・榎 023-626-9050

【作成協力】 カシコン銀行日系金融法人チーム（在バンコク）